

THE ピックアップ ラコルタの取り組みを紹介！

月1回のテーマカフェ 男もつらいよ 男性介護者座談会



ほんと吹田さんと共催で実施しました

現在介護中の人や介護を終えた人、地域で介護者支援をする人などに、ご参加いただきました。

ゲストの伊藤勝義さん（ケアマネジャー）から「男性介護者は完璧主義になりがち」「家族が

介護を必要としている状況を恥とを感じる人が多い」など、男性介護者にみられる特徴についてお話をいただきました。

後半は、自分の体験を話したり、上手な息抜きの方法について意見交換するなど、介護者自身の心身の安息について考える機会となりました。

●開催日：3月21日(木)

遊ばなくなったおもちゃの交換と 様々なワークショップ体験！ 南千里かえっこバザール



たくさんのおもちゃと親子で賑わいました

2013年から市民と一緒に企画・運営してきた南千里かえっこバザールですが、今年で最後の開催となりました。当日は、おもちゃの交換コーナーや、市民公益活動団体などによるワークショップを実施。約550人の来場者がありました。

また、千里ニュータウンプラザ内の各施設に協力いただき、謎解きゲームも行いました。イベントの締めくくりとなるオークションでは、子どもスタッフが司会進行をして、会場を盛り上げてくれました。



ボランティアのみなさんと記念撮影

●開催日：3月24日(日)

市民公益活動やまちづくりに役立てよう！ IT相談会～公共データの活用を考える～



11名の参加者が集まりました

経済産業省近畿経済産業局の方にお越しいただき、RESAS（地域経済分析システム）の活用方法について学びました。

また、吹田市の情報政策室より、3月から公開された吹田市のオープン

データについて紹介をしていただきました。

RESASは、地域経済に特化したデータが中心となりますが、各市町村で公開しているオープンデータをうまく活用することで、まちづくりの取り組みに役立てていくことができそうです。

●開催日：3月28日(木)

どなたでもご参加ください！ ラコルタの講座・イベント

6月18日・7月2日
7月16日(火)

広報担当者 養成講座

チラシの作り方や広報の基礎について学びます。

●とき：19:00～21:00
●定員：先着10名

7月6日(土)

地域を変える 仕事を創ろう

ソーシャルビジネス(SB)を始めるコツについて学びます。

●とき：13:00～16:00
●定員：先着20名
●共催：すいたSB支援ネットワーク

テーマカフェ

7月27日(土)

映画の中の マイノリティな 人たち

●とき：18:00～19:30
●定員：先着15名
●費用：100円

お申込み・
お問い合わせは
ラコルタまで

TEL:06-6155-3167
FAX:06-6833-9851
Eメール：
info@suita-koueki.org

※費用が明示されていないイベントは無料。
※申込期限の記載がなければ前日まで。

編集
ノート

先日、駅で目的地への行き方を外国人に尋ねられました。切符と一緒に買い、乗る電車を伝え、先にホームに向かっていて…彼女は改札機の切符の投入口ではない隙間に、切符を入れてしまっていたのです。最初は驚いたものの、様々な文化の人たちと暮らしていく上で、必要なことを考えさせられる出来事でした。(矢野)

＜発行責任者＞柳瀬真佐子
＜編集スタッフ＞
茨木由美・入江陽子・春貴勇力
森戸秀次・矢野真里加 (五十音順)

ラコルタ吹田 検索 <https://suita-koueki.org> アクセス 阪急電車千里線「南千里駅」改札出て左、千里ニュータウンプラザ6階

Newsletter Vol.27
※年4回発行(3月・6月・9月・12月)

吹田
市立
市民公益活動センター

ラコルタ | 吹田市立市民公益活動センター
TEL 06-6155-3167 FAX 06-6833-9851
Eメール info@suita-koueki.org

指定管理者 NPO 法人 市民ネットすいた

ラコルタ

吹田市立
市民公益活動センター

VOL.27

出会う→集う→育てる→実る

Newsletter 2019年6月1日号

○表紙：「Be Social」第12回・森 俊弥さん
○中面：特集 / 多文化共生のはざまで
○うら：ラコルタの取り組み、講座・イベント

「市民公益活動」は市民が自発的に行う社会貢献活動です。

市民公益活動センター（愛称：ラコルタ）は市民の力で

吹田市をより良いまちにするため、これらの活動を支援しています。



私たちが暮らす
地域や社会の事を
他人事ではなく自分事にする。
そういった“ソーシャルな生き方”の
魅力をお伝えします。

もり としや
第12回 森 俊弥 さん
IKiRU フェス実行委員会
実行委員長

関西大学在学中に、地元・江坂で生花店を創業。まちの未来について考えるイキルフェスを今年4月7日に初開催。公益社団法人吹田青年会議所 所属。

<https://www.ikirufes.com/>



■ 地域の人が集える場を
江坂は住みやすく、若い人も多いので賑わいがあります。しかし、僕の育った江の木町には地域のおまつりがなく、自治会やPTAなどに属していないと、接点を持つ機会がありませんでした。そこで、住民や商店が交流できるような場を創りたいと思ったのです。でも一人で出来ることには限界があるので、地元の仲間と共に実行委員会を立ち上げました。

■ 三万良しをモットーに
創業当時から、「三万良し」をモットーにしてきました。みんなが自分の利益だけを追求していると、調和のとれた社会は生まれませんと思っています。実行委員会は、若手経営者たちが中心となっていていますが、そういう思いに共感する人が集まり、イベントのコンセプトにも活かされることになりました。

■ 新しいものが
生まれる地域へ
イベントは盛況だったので、今回は出店されなかったお店からも、次回に参加したいという声が寄せられています。一人では出来なかったことも、みんなの力で実現させることが出来ました。今後も、みんなのアイデアや力を持ち寄って、地域の中で新しいものを生み出していくことにチャレンジしていきたいです。

吹田ではじめるソーシャルな生き方
ëNカレッジすいた
「何か活動してみたい」「人とつながりたい」
「地域や社会の役に立ちたい」といった
一人一人の思いをカタチに変え、ソーシャルな生き方について
講座やボランティア体験などを通して考える学び舎です。

予告！
第6期 8月23日(金)開校！
参加費：無料(ボランティア活動保険
未加入の方は保険代 300円) 定員：15名(多数抽選)
日時：8/23(金)、9/6(金)・20(金)、10/4(金)・18(金)
11/1(金)・15(金) 19時～21時 11/30(土) 14時～16時
7月2日(火)より申込受付開始
申込・お問い合わせはラコルタまで TEL06-6155-3167

多文化共生のはざまで ～外国にルーツを持つ子どもたちのこれから～

VOL.27
2019年6月1日号

ここに注目!

ラコルタの
特集

在留外国人数は、全国的に増加し続けており、2018年末で273万1,093人となりました。前年末に比べると、16万9,245人(6.6%)増加となり、過去最高の記録となっています。大阪府は東京、愛知に次いで全国で3番目に在留外国人数が多く、吹田市においては2018年に初めて5,000人を超えました。また、外国人労働者の受け入れを拡大する改正入管法が4月より施行され、今後5年間で最大34万人の受け入れが国内で見込まれている状況です。

多文化化が進む一方で、日々の暮らしに必要な「生活言語」や、教育に必要な「学習言語」の習得が追い付かず、子育てに悩む親や、学校教育についていけない子どもたちの姿が見えてきました。

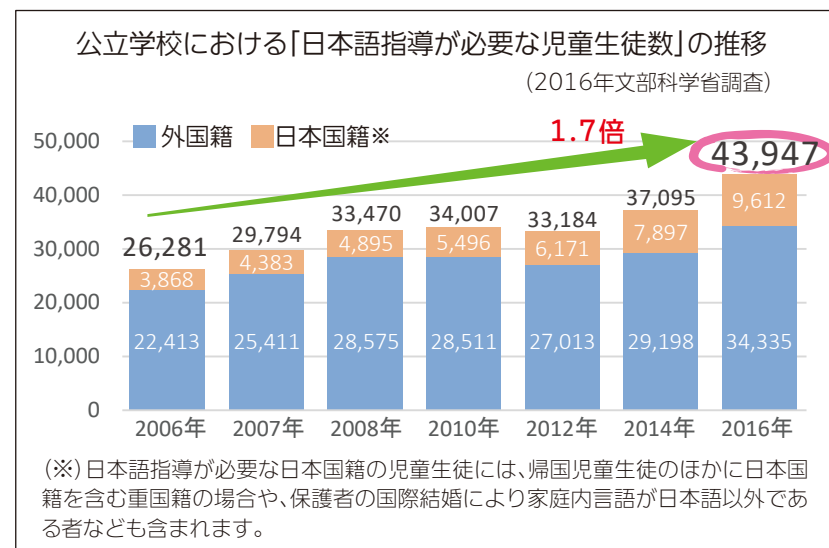
今号では、国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」の「質の高い教育をみんなに」「住み続けられるまちづくりを」の視点と、「子ども権利条約」の「育つ権利」から、多様な文化背景を持つ親や、子どもの学びと成長を支える取り組みを紹介します。

日本語指導が必要な子どもたちの現状と対策

言葉の支援

2016年に文部科学省が行った調査によると、「日本語指導が必要な児童・生徒の数」は全国で43,947人となっています。10年前に行った同調査から1.7倍となり、過去最多の結果となりました。(下記グラフ参照)

吹田市においては、全54小中学校のうち、日本語指導が必要な児童・生徒が在籍している学校は21校、児童・生徒の数は33人(2018年現在)となっており、中国語・韓国語・ネパール語など言語の多様化も進んでいます。



また、吹田市の特徴として、外国籍の児童・生徒の在籍校が散在している状況です。このような背景から、市内各校で受入体制の整備が進められています。

具体的には、通訳派遣や日本語指導教員による巡回指導など、個別の支援をはじめ、配付物や教材をわかりやすい日本語に書きかえるといったユニバーサルデザインの取り組みも行われています。

また、吹田市教育委員会では、市内の園児・児童・生徒を対象とした「さくら広場(日本語適応教室)」を、毎週水曜日の放課後に竹見台中学校で開催しています。ここでは、日本語の読み書きだけでなく、アイデンティティの形成や、親子のコミュニケーションを円滑にするため、母語※に慣れ親しむプログラムも行われています。

(※) 成長過程で身につけた言語をさす場合と、ルーツに関わる言語をさす場合があります。本文では後者の意味で使用しています。

居場所づくりで外国人親子の孤立を防ぐ

居場所の支援

外国にルーツを持つ子どもや保護者にとって必要なのは、言葉の支援だけではなく、

吹田市国際交流協会(SIFA)では、未就学児を持つ外国人親子の居場所づくりを行う「こあらくらぶ」を開催しています。日本語の絵本を読んだり、身体を動かして遊ぶなど、集まったメンバーに合わせて自由に交流をしています。

参加者には、日本語がある程度話せる人もいれば、あまり話せない人もいます。母語が英語圏ではない場合が多く、外国人にもわかりやすい「やさしい日本語」を使い、ゆっくりとコミュニケーションを取り合うことを大切にしています。

また、保健センターなど他の機関と連携をし、保健師による個別相談会を実施するなど、日本での子育てに必要な情報を届けています。国によって、子育ての制度や文化が違うため、戸惑うことも多く、子どもの発育や子育てサロンの情報など、気になっていたことを相談できる機会になっています。活動を支えるボランティアも子連れでの参加が多く、子どもの話題をきっかけに交流がより深まっています。

「こあらくらぶ」に参加したことで、日本で暮らすことに前向きになったという参加者もいるそうです。まだ完全ではない自分の日本語でも、理解しようとしてくれる人がいる、コミュニケーションがとれるなどの経験が、孤立しやすい外国人親子にとって、地域社会に繋がる一歩となっています。

「こあらくらぶ」へのお問い合わせは、下記、吹田市国際交流協会(SIFA)へ
TEL: 06-6835-1192 E-mail: info@suita-sifa.org



子育て支援ガイドブック『日本語で伝えるコツ』

外国人の子育て支援に関わる専門職やボランティアが、外国人保護者と日本語で意思疎通するためのコツをまとめたものです。日本人側からの情報伝達だけでなく、双方向のコミュニケーションに役立つ「やさしい日本語」を紹介しています。社会福祉社大阪ボランティア協会のHPよりダウンロードできます。



市民主体で多文化共生に取り組む

「外国から来た人と地域の人と共に住みやすい街になるように」にほんごサポートひまわり会(大阪市平野区)

春休みの土曜日の午後、「にほんごサポートひまわり会(以下、ひまわり会)」の宿題教室に子どもたちが集まってきました。教科書を広げて勉強する子もいれば、友だちとおしゃべりに花を咲かせる子、新しい制服をみんなに見せに来た子とさまざま。お盆と年末年始以外、毎週欠かさず開催されているこの教室は、彼らにとって大切な居場所のひとつになっているようです。



地域で支える

代表の斎藤裕子さんは、学生時代に東洋史を専攻し中国語を学んでいたことから、中国帰国者※の支援活動に長く携わり、2003年、大阪市平野区でひまわり会を設立しました。以来、おとな向けの「日本語教室」、小さな子どもを持つお母さんをサポートする「子育て日本語サロン」などを通じて、地域で暮らす外国人のサポートを15年以上にわたり続けてきました。

「小さな教室ながら、社会の移り変わりを反映しているよね」と斎藤さん。立上げ当初、参加者の出身国はほぼ中国でしたが、ペルーやブラジルなど南米が増え、最近では半数近くがベトナムに。日本で生まれ育つ子どもも増え、状況は複雑になっているといいます。

「例えば、出身の違う外国人同士が日本で出会って結婚し、子どもが生まれる。子どもは家庭の内と外で別々の言語に接して育ち、それぞれ日常会話レベルでは不自由しないけれど、自分の本当の感情を伝えたり、複雑なコミュニケーションが苦手だったりすることもあります。うちの教室にはそういう子も通っていますが、彼らは公的な支援の対象にはならないし、学校でも特に配慮はありません」。

実は斎藤さんが活動で大切にしているのは、支援する側・される側という関係性ではなく、同じまちに暮らす住民としてつながりを築いていくこと。そのために行政や学校、地域の他団体との協働もていねいにすすめています。例えば、昨年の地震や大型台風の経験から、「外国人とともに学ぶ防災教室」を地域防災リーダーと一緒に開催したところ、防災リーダー側から次の開催を望む声が上がりました。「外国人が地域に出て行くきっかけをつくるのと同時に、外国人住民の置かれている環境に目を向け、考える人が地域にもっと増えてほしいと思っています」。

(※) 第二次世界大戦のあと、日本へ帰る機会を失い、中国で暮らしてきた日本人の方々のこと。中国残留邦人。



『外国から来た子どもを地域で支える』

外国にルーツを持つ子どもたちが置かれている状況や、ひまわり会の活動についてまとめられた記録集。2019年5月現在、第7集まで発行されています。(第6集はラコルタの図書コーナーでご覧いただくことができます)

「にほんごサポートひまわり会」へのお問い合わせは、下記へ
TEL: 090-6676-5839 E-mail: himawarij1511@gmail.com